

日本共産党

議席の値打ち

大阪市議団 山中団長に聞く



大阪市の未来を守ろうと宣伝する党大阪市議団＝2020年10月12日、大阪市役所前

「共産党議席の値打ち」について、党大阪市議団の山中智子団長に聞きました。

「維新市政の現状は、大阪市を廃止する」「大阪部」構想の是非を問う二度目の住民投票も否決となり、残った大阪市をどうより良い街に変えるのかをみながら考える時です。ところが、一元化条例や市立高校の府への移管などに象徴されるように、大阪市の持つ権限や財産を府に差し出す、いわば大阪市の無力化・形骸化が進んでいます。また、この間、多くの

用すべきなのに、独自のコロナ対策はほとんどない。全国最多の死者数という深刻な事態を主体的に分析して対策に乗り出す、という真剣な姿も見えませんでした。一方で、カジノ事業者の言いなりに青天井の財政出動を約束する始末で、市民サービスを削ってつくった財源を夢洲（ゆめしま）に捨てるようなものだと思います。また、この間、多くの

長年にわたって「呼び込み型の巨大開発は間違っている」と主張し続けて実績があればこそ、これまで市政も遠慮なく批判し、「新しい大阪市」を標榜（ひょうぼう）してきた」と思っています。いま、カジノ誘致が大きな争点となっていますが、党市議団は、ただの一度も、カジノ誘致やそのための万博・夢洲開発に賛同したことがないか

カジノ許さず市政転換へ

運動と共同して

——市議団が果たしてきた役割 実績・値打ちは。

「カジノはやめられない、意見書や条例案の提案もできないなど、市民のみさんの声を届けるうえで、限られたことしかできず情けない思いばかりでした。どんなことがあっても交渉会派の要件である5人を絶対確保し、少しでも大きな議員団になることで、カジノストップ、より良い大阪市をみながらつくる転換点となるよう全力を尽くします。」

事業の統廃合、民営化、市民サービス切り捨てや職員減らしなどで財政に余裕が出てきています。公共の役割の隙限のない投げ捨てで財源をつくること自体おかしいですが、せめてコロナ禍でもと存分に市民のために活

たは、大阪市をなくすだけでも、これまで通りの大阪市を守るのもなく、文字通り市民が主役

らこそ、「カジノはやめられない」の市民のみさんと心ひとつに、胸をはってその声を届けることができます。学校給食の無償化を求める声が出た時、吉村洋文知事が「それは共産党の主張。財源論を無視」と攻撃したことは有名です。給食費無償化、中学校給食の実施、小中学校の普通教室へのエアコン設置、子どもの医療費助



山中智子団長

を挙げた新しい大阪市をつくることを強調しました。大阪府・森尾町子